

満開の梅の畑に、モグラ塚がぼこぼこ黒い土を盛り上げています。

モグラ塚は、トンネルを掘る時余った土を、モグラが地面に押し出したものです。触ってみると、細かくサラサラした土の山。そばのアズマネザサを手折って、小さな塚のひとつに刺してみました。一箇所だけ柔らかい手ごたえでスツと深く入る場所があります。土を除けても穴は開いていませんが、この柔らかい場所をずっと掘っていくと、モグラトンネルに出会うのでしょうか？

モグラは会いたいけど、なかなか出会えない動物です。姿を見せないにもかかわらずよく知られていて、絵本や漫画やぬいぐるみにも愛嬌のある姿で登場します。でも実際のモグラはどこでどんな生活をしているのでしょうか？

日中初めてモグラを見たのは昔、子どもたちと陣場山に行った時です。麓の林で小休止の私たちの目の前の地面を、ターと小さな黒い物が大急ぎで走りすぎました。「アッ、モグラだ！」私たちは叫びました。モグラは日光に当たると死ぬと聞いていましたが、このモグラは急いではいたけど、大丈夫なようでした。

またある日、高校生になった息子が帰宅するなり「今、真光寺川でモグラが泳いでいたよ」というのです。よく聞くと、大雨の後増水した川を、前足で水かきしながら上手に渡っていったそうです。ビロードのような毛皮が水を弾くのでしょうか？

「モグラは溺れる」というのも、正確ではなかったようです。

我が家で猫を飼うようになってから、モグラと

遭遇する機会が増えました。死体が転がっていることもあるのですが、「キーキー」鳴き喚く元気なのを持って来ることもあります。

猫は獲物で遊ぶので、部屋を逃げ回るつややかな毛並みのモグラを追いかけています。息子が取り上げると、モグラは手からスルリと逃げて、廊下を走り、洗面所の洗濯機の下に逃げ込みました。

すべすべと柔らかい身体はつかみにくく、まさに大捕り物でした。庭に出すと前足で土を掻き分け、大急ぎで地中に潜って行きました。

モグラの身体は地中生活に適應して、目は退化し点のように小さく、鼻は突き

出て嗅覚に優れ、ほぼ自分の身体にぴったりのトンネル内で移動し易いようにビロード状の毛に包まれています。ミミズや虫などに噛み付いて食べるために歯は鋭く、土を掘る前足は分厚いシャベルのようです。短い尾に生えている毛はトンネルをバックする時後ろを探る感覚器なのだそうです。

関東を中心に生息するのはアズマモグラ、静岡より西に行くとき体の大きいコウベモグラと棲み分けていて、コウベモグラは箱根を越えられないので、その辺りが境目というのも面白い話です。

「モグラ塚が出来るようになれば、春が近い」と、農家のおばさんに聞いた事があります。不思議に思って尋ねると「だんだん地面が暖かくなって、地中の虫が地面近くにくると、モグラもそれを食べるにくるから」とのことでした。

2月我が家の庭にも、大きなモグラ塚が出来ていました。

(いよいよ虫たちも動き始めたのだな・・・)

私もおばさんのように、春の訪れが近いのを感じたのでした。

